

# 教職意識高揚を図る授業内容の工夫改善に関する試み

—人間発達環境課程及び他学部学生を対象として—

山下 隆章・山下 真弓

(学校教育講座)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

## Study on Device and Improvement of the Contents to raise Awareness about the Teaching Profession : For the Humanities and Environmental Science Course and the Other Undergraduates

Takaaki Yamashita and Mayumi Yamashita

*Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

**要旨** 総合大学における教員養成に関し、学校教育教員養成課程以外の学生は自由意思にもとづく受講であるために、教職について学ぶ機会や時間が制限される。ガイダンスとなる「教職の意義等に関する科目」では、進路適性と意志決定がさらに重要視され、教職の「楽しさ」と「厳しさ」をより認識できる授業構成が求められる。グループ活動を重視した学習活動からは、学生各々が教員としての資質と心構えを見出し進路選択の一助としていた。

**キーワード** 教員養成 カリキュラム 教職実践 コミュニケーション能力 教育職員免許法

### 1 はじめに

周知のとおり、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教諭の普通免許状取得を目指す学生は、「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」「教育課程及び指導法に関する科目」「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」「教育実習」「教職実践演習」について、それぞれ最低修得単位数が規定されている(教育職員免許法施行規則第6条)。また、養護教諭の場合は、「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」「教育課程に関する科目」「生徒指導及び教育相談に関する科目」「養護実習」「教職実践演習」となっ

ている(教育職員免許法施行規則第10条)。免許種すべてに2単位の修得が義務づけられている「教職の意義等に関する科目」は、「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)」 「進路選択に資する各種の機会の提供等」を内容に含めることとされ、教職を目指す者にとってのガイダンスとなる科目である。

本学では、この科目を「教職概論」と銘打ち、教育学部学校教育教員養成課程(以下、教員養成課程)の学生は第1学年で受講する。本研究の対象である教育学部人間発達環境課程及び他学部(以下、他課程・他学部)の学生は、別クラスの編制で第2学年次以降に受講することと

なっている<sup>1)</sup>。

このうち、他課程・他学部生の受講については、以下の課題があった。

- ① 将来の職業として教職を志望する学生の意識の差が非常に大きいなかで、進路適性の有無を見極めさせ、教職志望の可否について意志決定させる必要がある。
- ② 他課程・他学部生が取得できる免許状の校種は中学校、高等学校であり、特に高等学校教員の志望が多い。そのため、小中学校教員免許を主眼とする授業内容に満足していない学生も少なからずいる。
- ③ 2009年度から養護教諭の免許状取得にかかり医学部看護学科の学生も受講するようになり、養護教諭に関する内容も加えることが必要である。
- ④ 授業の一環として実施する附属学校への参観は、課程・学部での履修の都合や校地の立地の関係で参加が難しい。

また、平成18年7月11日に中央教育審議会が答申した「今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)」には、「『教職指導』の充実」にかかる「入学時のガイダンス機能の充実」や「集団学習の機会充実」、インターンシップ等の積極的提供」を行うことが示されている。これらを踏まえ、他課程・他学部生の「教職概論」の課題解決に向け、授業内容を工夫改善することとした。

## 2 「教職概論」の授業改善の経緯と授業構成

### (1) 「教職概論」授業改善の経緯

「教職概論」の授業担当者は、従来より教育学部及び教育実践総合センターの教員が担当してきたところである(以下、授業担当の大学教員は担当教員と記す)。教員全員が関わるのできるように、2年間の任期で半数を交替させて運営してきた。2002年5月、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」の設置にともない<sup>3)</sup>、翌年度から小中学校の現職教員3名が人事交流により専任の助教授として

着任した(以下、交流人事教員と記す)。以降、交流人事教員も教員養成課程生の「教職概論」を担当していたが、2007年度からは他課程・他学部生を担当することとなった。この時の教員構成は、教育学部3名(うち交流人事教員1名)及び教育実践総合センター(1名)の4名である。また、交流人事教員は新任の教員が単年度で交替することにした。

2007年度は、課題となっていた学校参観の在り方が検討された。授業は該当時間のみで行うこととし、受講生が可能な範囲で附属学校園の研究大会に自由参加させるようにした。そして、学校参観に替わりうる実践的な内容を教授することとして次のように授業を構成した。

- ① 学校体験を振り返る  
思い出の教師      思い出の授業  
思い出の活動      私の人間形成
- ② 教職を知る  
教師の一日      組織の中の教師  
教師と子ども観      教師と教育実践
- ③ 教育実践を学ぶ  
エンカウンター      挨拶をつくる

ところが、百日咳の流行により休講措置がとられ、その後も罹患者が増加した<sup>4)</sup>ため、予定の大幅な変更が余儀なくされ、2008年度が本格的な実施となった。授業後、学生から感想を求めたところ、高等学校の状況を知りたいとの要望があった。この時、交流人事教員は中学校からの現職教員が担当していたが、翌年度は小学校からの現職教員と交替するため、中学校の状況も十分に伝えることができないとの懸念が生じた。

そこで、2009年度からは中学校からの交流人事教員は本学に在籍する期間は全年度担当することとして、交流人事教員による担当教員を2名に増やし、より学校現場の状況を伝えることができるよう配慮した。また、高等学校教員(県立学校教頭)をゲストティーチャーとして招聘して学生のニーズに応えるようにもした。同様に、この年から受講する医学部看護学科の学生についても、養護教諭の職務を知りたいとの要望が出されることが容易に予想された

ため、養護教諭（公立中学校）もゲストティーチャーとして招くことにした。

以上の経緯・経過により授業構成は現在に至っている。

## （２）「教職概論」の授業構成

表１は、2010年度、他課程・他学部生の「教職概論」のシラバスである<sup>5)</sup>。受講者の課程・学部、受講人数は次のとおりであった（括弧内は単位取得者数）。

- 学校教育教員養成課程 5名（5名）
- 人間発達環境課程 25名（25名）
- 法学部 1名（1名）
- 経済学部 7名（5名）
- 工学部 8名（7名）
- 農学部 12名（11名）
- 医学部 27名（23名）
- 大学院 2名（2名）（教育・農）
- 計 87名（79名）

オリエンテーションで受講理由を話し合わせたところ、「真に教職をめざしている」、「資格の一つとして教職員免許をとらえ特に教職をめざしていない」など、さまざまな発言があった。また、教職を目指すと考えている学生の多くが「部活動の指導をしたい」ことを最大の理由にあげている。そのような意識で授業に臨む学生に、教職を「自らのライフコース」の選択肢の一つとして位置づけるかどうか、客観的に判断させることも、担当教員の重要な役割との認識が必要と考えた。そのため、教職の厳しさと楽しさ、やりがいを明確に伝えることを意識した授業を展開させることとした。

また、グループディスカッションを中心にした授業を多く取り入れるよう心がけた。教員養成課程生の「教職概論」は、学校参観を柱にし、数時間かけてディスカッションを展開させているが、こちらは、1時間ごとで完結させるようにした。学校参観は実施しないため、学生の児

表１ 「教職概論」シラバス（2010年度）

<p>○授業の概要</p> <p>本授業は、教員免許状を取得しようとする者にとって必修科目であり、免許法上「教職の意義等に関する科目」に位置づけられます。大きく以下の３つが学習内容となります。</p> <p>１）教職の意義（教師って何？教育って何？）について学ぶこと</p> <p>２）教員の役割・職務内容等について学ぶこと</p> <p>３）自己認識を深めながら自らのライフコースを確立していくこと</p> <p>授業では、グループでのディスカッションを行います。また、全体への発表を行います。それらを通して、教育について、また自己の課題について、より問題意識を深めていきます。</p> <p>○授業の目的・達成目標</p> <p>本授業の目的は、これから教職を志すその端緒として、教職の意義等について改めて問い直し、問題意識を深め、自己自身を捉え直していくことが大きな柱となっています。「考察」「意見交流」「省察」といったサイクル</p>	<p>で授業を展開し、最終的には、教職の意義等に関わる「論文」を書き上げます。この過程を通して、教職を志す学生としての問題意識を深めます。</p> <p>○授業計画</p> <p>（１）オリエンテーション — 授業の概要説明</p> <p>（２）学校体験を振り返る① — 思い出の教師</p> <p>（３）学校体験を振り返る② — 思い出の教師</p> <p>（４）学校体験を振り返る③ — 思い出の授業</p> <p>（５）学校体験を振り返る④ — 思い出の活動</p> <p>（６）学校体験を振り返る⑤ — 私の人間形成</p> <p>（７）教職を知る① — 組織の中の教師</p> <p>（８）教職を知る② — 教師の一日</p> <p>（９）教職を知る③ — 教師と子ども観</p> <p>（１０）教職を知る④ — 教師と教育実践</p> <p>（１１）教育実践を学ぶ① （ゲストティーチャー・高校教諭）</p> <p>（１２）教育実践を学ぶ② （ゲストティーチャー・養護教諭）</p> <p>（１３）教育実践を学ぶ③ — 挨拶をつくる</p> <p>（１４）まとめ・授業評価</p>
---	--

童生徒時代の教師，授業，活動の記憶を振り返らせながら，教職の実像に触れさせるように授業を構成した。

授業は，4名の担当教員がそれぞれオムニバス形式で授業を担当することとし，全員でグループディスカッションの指導助言にあたることとした。

ここでは，表1中の授業計画(2)・(3)「思い出の教師」，(8)「教師の一日」，(13)「挨拶をつくる」，(14)「まとめ・授業評価」を取り上げ，授業の概要及び学生の反応を紹介する。

### 3 「教職概論」の授業概要

#### (1) 実践事例Ⅰ「思い出の教師」(第1時)

##### ①授業計画

授業の流れ及び活動の留意点	
0	授業説明・資料配布 (1) 名前プレートを完成する。
1	自己紹介 (1) 握手，あいさつをする。 ・2分間でできるだけ多くの人と ・相手の所属，名前を読み上げて 「○○学部の○○さんですね，よろしく。」 (2) 何人とあいさつしたかを聞く。名前を確認する。 ●ふりかえり(よくわかるとは)
	(3) 知らない人とペアになり，1分間で相手に思い出の教師について語る。(傾聴)
	(4) 聞いた側は30秒間で話した内容の要点を相手に伝える。(繰り返し) ●ふりかえり
2	グループディスカッション (1) グループ分け (2) テーマにしたがい討議する。 テーマ「あなたの目指す『教師像』」 ・これまでの体験(出会った教師，塾講師・家庭教師など)をもとに話し合う。 ・グループでまとめる必要はない。
3	全体発表 (1) グループでのディスカッションの概要を発表する。(3分程度で)
4	まとめ (1) 担当教員から思い出の教師の話を書く。 (2) 感想を書く。

#### ②授業の要点

見知らぬ他学部の学生との交流の始まりである。会話が成り立たなければ授業は成立しないため，授業の終了時には全員と会話を交わし交流していることが別段の目的であることを告げ，アイスブレイキングの手法を取り入れた自己紹介を行った。紙に書いた所属と名前を相手が読み上げるだけの活動である。最初は戸惑っていたが，読み方がわからないことで会話がはずむなどして，時間が少なかったという感想もあった。「よくわかる・わからせる」ということを意識する活動であったことを後で示した。

次に，「話すこと」「聞くこと」の大切さを体感させるため，ペアを作り話し手が「思い出の教師」について語ったことを聞き手が要点をまとめて返すようにさせた。相手の話に関心を持ち，初対面であるにもかかわらず深く掘り下げていこうとする学生もいた。

雰囲気や和んだところで，本題のグループディスカッションである。「思い出の教師」と「理想の教師」は必ずしも一致しない。また，多様にある理想を否定することなく認めることができるよう，グループで意見を集約させる必要はないことにした。

全体発表では，どうしても代表の発表者に任せきりになってしまう。そこで，メンバー一人一人が他のグループを訪れて，話し合ったことを紹介させるようにして，全員に発言させる機会を持たせるようにした(授業では，「あなたは愛の伝道師」と名付けた)。

表2は，この時間の感想である。講義中心の授業形態を想像していた学生が殆どであり，やや面喰った態も見られたものの，児童生徒と相対するうえで，教員がコミュニケーション能力を備える必要性から，「伝えること」「聴くこと」を命題とする感想が多かった。また，自己の体験を振り返ること，意見を交流することの重要性を感得する意見も見られた。そして，この授業の主眼の一つである教職とする教職の意義に迫ろうとする感想もあった。

表2 実践事例Ⅰ「思い出の教師」(第1時)の主な感想

<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介をするのに他学部の人たちのところに行ったりして、もっともっと行動力があるなと思った。(教育)</li> <li>○要点をきちんと聞き取り、またしっかり伝えることは子どもを守ることにつながる、ということがとても印象に残っている。コミュニケーション能力を養っていききたい。(医)</li> <li>○伝えるべきことを的確に短時間で伝えることができるよう訓練が必要だと思った。(教育)</li> <li>○人が言ったことを自分の言葉で言いかえるのは、ちゃんと理解していないと難しい。(医)</li> <li>○最後に他のグループに行って意見を述べられて度胸をつける練習になってよかった。(農)</li> <li>○「愛の伝道師」の時、緊張と人前で話すことの苦手意識から自分の言いたいことがうまく伝えられなかった。もっと伝えたいことがあったのに…。(教育)</li> <li>○今日のように思い出したり、人に伝えたりすることで、今まで出会ってきた先生のすばらしいところ、悪いところに新たに気づけた。(医)</li> <li>○自分だけでなく他の人の教師像を聞いて自分の考えが広がったように思います。自分の言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>葉で表せなかったものが他の人が表現してくれて、自分のなかで再発見できました。(教育)</li> <li>○たくさんの班の意見を聞いたのに、ほとんどの内容がかぶっていないのに驚きました。こんなふうには色々な考えを持った学生が将来教員になり、生徒たちのニーズを満たしていくのだらうと思った。(工)</li> <li>○理想の先生として、「優しさの中にも厳しさがある」ということが共通していると感じた。(農)</li> <li>○基本的に多くの人が「好かれる先生」をめざしていると思うなか、学生時代には厳しくてあまり好きではなかったけれど、思い返してみると良い先生だったと思われることを理想としているというのが印象に残っています。(経済)</li> <li>○先生も個性を大切に、目標を持つことが大切だと感じた。(経済)</li> <li>○免許を取ることが目標なので、その先の教師としての理想像は持っていなかったことに気づいた。自分の目指す教師像はきちんと持つべきだと実感した。(教育)</li> </ul>
--	---

(2) 実践事例Ⅰ「思い出の教師」(第2時)

①授業計画

授業の流れ及び活動の留意点
0 授業説明・資料配布
(1) グループ(4~5人)分けをする。
1 自己紹介
(1) 「4つのわたし、ひとつはうそ」をする。
●ふりかえり
2 グループディスカッション
(1) グループ分け
・バースデーチェーン
(2) テーマにしたがい討議する。
テーマ「信頼できる教師とは」
観点 児童生徒にとって
保護者にとって
地域にとって
同僚(教師)にとって
3 全体発表
(1) 討議の概要を発表する。

4 まとめ

- (1) 担当教員の教師経験からの理想の教師像の話聞く。
- (2) 感想を書く。

②授業の要点

今回も自己紹介から始めた。「4つのわたし、ひとつはうそ」というアクティビティは、自分に関することがら3つとまったく関係のないことがら1つを紙に書き、関係のないことがらを当てるといふものである。初対面で受ける印象はあてにならぬものであること、相手をよく知ることが大切であることを気づかせるねらいがある。また、3つの事実についての説明をすることとしているので話すことが明確であり、聞く側も質問をよく重ねており、和やかな雰囲気づくりに役立った。

次いで、非言語コミュニケーションを活用して誕生日順に環を作るバースデーチェーンを行うことで新たなグループに分け、ディスカッションに入った。テーマを「信頼できる教師とは」と設定したが、イメージしにくいこともあり「良い教師」で考えることとさせた。

文部科学省は、教員に求められる資質能力について次のように示している<sup>6)</sup>。

○教師の仕事に対する強い情熱

教師の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感など

○教育の専門家としての確かな力量

子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導の力、学級づくりの力など

○総合的な人間力

豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人間関係能力など

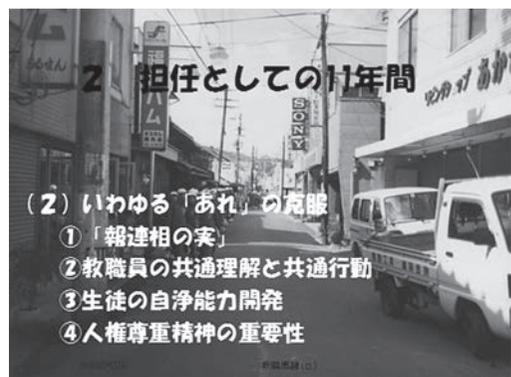
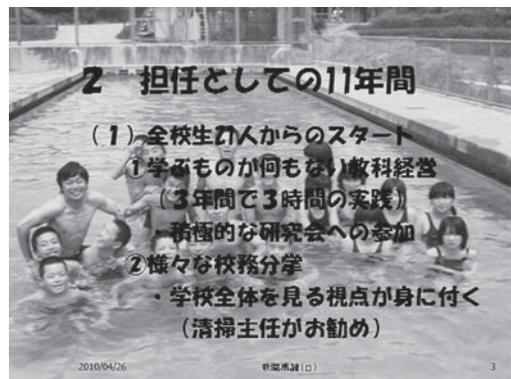
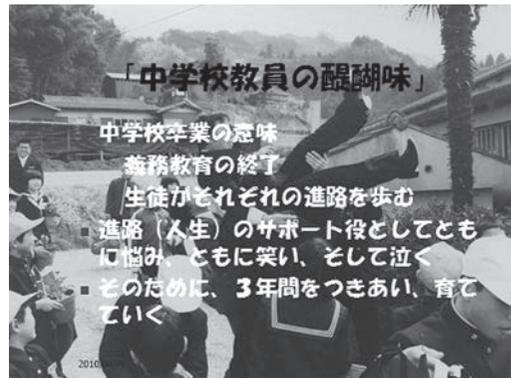
学生は、自己の児童生徒時代の経験により理想の教師像を形成している。教員は児童生徒にだけ関わっているというイメージが強いため、「強い情熱」「使命感」は独善的なものとなりやすい。これを具体的、客観的にとらえさせるために、討議の観点を「児童生徒」「保護者」「地域」「同僚（教師）」に分けて考えさせることとした。児童生徒の健やかな成長とともに関わる保護者や地域コミュニティ、組織とともに働く同僚と、さまざまな関係性のなかに教員はあることに気づかせることが、教職を考える上で最優先されるとの意向からである。

時間的な制約もあり、「児童生徒」と他の観点1つを選んで各グループで討議させることにした。全体発表では、各観点別に数グループに討議内容を発表させた。『「児童生徒」と『保護者』では求める教員像が異なるのではないか、「児童生徒によかれと思ってやったことが別の学級担任への不満を生むことになるのではないか」など、さまざまな意見が出された。ただ、「地域」についてはイメージしにくかったようである。

「思い出の教師」のまとめとして、交流人事教員が教員経験を通して学んだことを語った。以下にプレゼンテーション資料の一部（ア）と

教員の心構え（イ）として伝えたことと授業後の学生の感想（ウ）を示しておく。

ア プレゼンテーション資料



## イ 教員の心構え

### 3 教師として必要なこと

- (1) 生徒とともに歩む（関わりきる）
  - ①生徒は待っている
  - ②行動の背景をしっかりとつかむ
- (2) 生徒に自分たちで「やった」「できた」と思いこませる
  - ①興味・関心のわく、わかる授業を
  - ②生徒会活動、学級活動、部活動で
- (3) 学校という組織体の一員であることを常に意識する
  - ①「これぐらい」は禁物
  - ②広い視野で
- (4) フットワークを軽く
  - ①電話ですまさない
  - ②可能な限り手伝う、支える姿勢で
- (5) 教科以外に自分の得意分野を作る
  - ①道徳・特別活動・部活動など
- (6) 何事にもプラス思考で
  - ①弱点も考えようによっては強み

### 4 おわりに

生徒とともに喜び、悩み、苦しみ、泣いたからこそ得られる教員の醍醐味を、ぜひあなたもたがとともに

## ウ 学生の感想

- 「良い教師」と一口に言っても、見る人の立場によって求められるものが違ってくるということに改めて気づかされた。(教育)
- すべてに共通して言えることは「公正無私・規律性・子どもを信じ切る」ことの大切さだということを学びました。(教育)
- 視点が違えば「よい」というものは違ったものになってくるのだと気づいた。(農)
- よい先生について考えるとき、その場限りで考えるか長い目で見て考えるかで違ってくるという子がいてすごい！と思いました。(工)
- 児童生徒にとって良い先生、保護者にとって良い先生、自分の理想とする先生が一致するわけじゃないんだと知った。(医)
- 話を聞いて、教師は大変だけどやりがいがあるやっぱあるなと思いました。(経済)
- この授業を受けるといつも前向きにがんばろうと思う気持ちになります。(教育)

## (3) 実践事例Ⅱ「教師の一日」

### ①授業計画

授業の流れ及び活動の留意点	
0	授業説明・資料配布
1	「教師の一日」を予想する。 (1) 各自で付箋に「教師の仕事」を書き込み、グループで「一日の流れ」にそった一覧表に付箋を貼って、表を完成する。 (2) 完成した表を見て、感想を話し合う。
2	「教師の一日（中学校編）」の説明 〔図1を参照〕 それぞれの仕事の内容と留意点、なぜそれが大切かを話す。
3	感想や疑問点等話し合い 感想、疑問点は、グループごとに記録しておく。
4	全体での発表 グループから出た疑問点に対して、教員が答える。

### ②授業の要点

「教職を知る」上で教員はどのように一日を過ごしているか理解させる必要がある。「教員は忙しい」とは聞いていながらその具体は不明である。空き時間には職員室でゆっくりとコーヒーを飲んでいるというイメージの学生もいる。そこで、ブレンストーミングにより「教員の一日」を出させることとした。学生1人に10枚ずつ付箋紙を渡して教員の仕事を書かせたのち、グループで時系列に沿い分類させたところ、どのグループも登校指導、教科指導、清掃指導、部活動指導に集中する状態であった。

次いで、図1を渡し、写真資料を交えて教員の活動について説明をした。

例えば登校指導では次のことがらを伝えた。

- ・正門で生徒指導主事や団付きの教員などがあいさつ指導や交通安全指導の実施
  - ・教室で学級担任が出欠、健康の確認
  - ・職員室で団付きの教員などが欠席連絡の応対
  - ・下駄箱で団付きの教員が出欠の確認
  - ・交通安全担当の教員が自転車の施錠確認や整頓
- 学生は、写真を通して過去の自分を振り返るとともに、学級担任の動きにのみ意識が向けられていたことに気づいていった。

防災避難訓練などの学校行事は、学校の都合

## 教師の一日〔中学校編〕

時 間	主な仕事	仕事の内容	
		担 任	担 任 外
～始業前	登校指導	(教室で生徒を迎える)	正門等で挨拶, 服装指導 欠席連絡受付
職員朝礼(終礼)		行事等の確認・生徒指導上の問題伝達・共通理解事項等(週2～5回)	
朝の会	遅刻者へ連絡 生活記録・提出物等点検	行事等の伝達, 提出物の確認 (問診票等当日提出物は家庭連絡) 読書指導, 課題ドリル等指導	登校していない生徒宅へ 家庭連絡 朝の会の指導補助
1～4校時	授 業	一斉指導・少人数指導・個別指導 (ほめる, 微笑む, アイコンタクト等, 授業規律の徹底) ※空き時間の教師は巡回指導	
休み時間 空き時間	授業の準備 宿題等の点検 生活記録点検 生徒管理	宿題等のチェック・丸付け 次時の授業の教材・教具の用意 ※状況によっては巡回指導	同左
給 食	給食指導	配膳指導(食物アレルギー等の配慮) 食事指導(偏食・食事が遅い子への指導) 後片付け指導 (残飯の始末, 食器の片付け, 清掃等)	コンテナでの運搬指導 教室で担任と給食指導 放送委員への指導
昼休み	生徒管理	一人で過ごす子への配慮 いじめなどの問題行動の早期発見 薬等持参・喘息吸入等の生徒への配慮 (養護教諭との連携・周囲の目)	巡回指導
5～6校時	授 業		
清 掃	清掃指導	各自の分担範囲・道具の使い方・手順等(教師が師範, 活動させる)	
帰りの会	予定周知 生活記録確認	宿題・手紙等の配布, 準備物の周知 ※欠席者への対応	帰りの会の指導補助
放課後	下校指導	生徒の教室退室確認	一斉下校時, 立哨指導
	部活動指導	実技指導, 対外試合調整 部活動終了後の下校指導	
	職員会議等	職員会議, 現職教育, 生徒各種委員会, 学年団会, 企画委員会, 現教推進委員会, 現職教育各研究部会, 進路対策委員会, ケース検討会等	
	補充学習	学習指導上課題のある生徒・家庭的に配慮が必要な生徒への個別指導	
	教育相談	保護者からの相談をうける(随時, 内容により各担当で対応)	
	家庭連絡 (電話・訪問) 事務処理 外部連絡	欠席者・けが・トラブル等, 家庭に連絡 担当校務分掌の文書作成 校外学習や授業依頼等の連絡・下見	(校区内巡視)
	学級事務 教科事務	教室掲示, 丸付け, 教材作成, 指導案作成, 週案, テスト採点等	丸付け, 教材作成, 指導案 作成, 週案, テスト採点等
	日直	施錠確認, 学校日誌記録(翌日に開錠)	
	最終退庁者	施錠, 閉門(遅い場合は警備会社に連絡)	
	自主研究会	所属の自主研究会に参加(授業検討等)	
帰宅後	学級・教科・分掌事務	その日にできなかったことをする	
休 日	部活動指導 自主研修 (学校へ出勤)	実技指導, 対外試合 教材研究, 自主サークルや講演会等に参加 校務分掌, 授業の準備, 教室掲示等	
問題発生時(随時)		基本的には全員で対応する	

図1 教師の一日

表3 実践事例Ⅱ「教師の一日」の主な感想

<p>○教師の仕事は予想以上に多かったが、自分で時間を作ろうと思えば作れると聞き、忙しくても目標があれば自分のしたいことを成し遂げられるのだ。(教育)</p> <p>○忙しいとは思っていたけれど、やっぱりすることがたくさんあるというのが感想だ。本当に好きでないといけない仕事だと思う。(教育)</p> <p>○教師は本当に「縁の下の力持ち」的な存在だなと思いました。(教育)</p> <p>○教員をめざして勉強していて、自分の将来がはっきり見えた気になっていましたが、小中</p>	<p>高とか教科、また校務など様々あって、自分次第で決まるので、もっと詳しく考えてゆきたいと思った。(工)</p> <p>○教師の細かな仕事を知り、私たちはこんなにも先生に守られていたんだと改めて思った。(医)</p> <p>○先生の「好きだから」という言葉を聞いてなんか嬉しかったです。私もがんばりたいと思いました。(農)</p> <p>○ほうきの使い方も種類によって使い方が違って、ただ生徒に「そうじをしろよー」と言うだけではいけないんだなと思いました。(教育)</p>
--	---

が優先されるものではなく、外部機関との連絡調整が必要であること、つまり早い時期から教員により準備がなされていることも、学生にとっては新しい発見であった。

表3に示したように、間断なくある仕事を見て、教職に就くことに不安を感じる学生も当然ながらいた。学生の多くは、休日までこなさなければならぬ仕事に忙殺されて自分の時間がとれるのか、なぜ教員を続けられるかということに関心があった。同時に、ここまで関わっていた教員の仕事を受けとめ、教職に就く意義を深く考えようとする学生も多かった。

#### (4) 実践事例Ⅲ「挨拶をつくる」

##### ①ゲストティーチャー講話

「教育実践を学ぶ」では、附属坂出中学校養護教諭と香川県立観音寺第一高等学校教諭岡田倫代氏<sup>7)</sup>をゲストティーチャーとして招いた。

養護教諭の講話では、心と身体の健康を守る保健室経営の在り方や保護者との対応、教員との連携について具体的事例を交えた講話があり、医学部生の意欲を高めただけでなく、医学部外の学生も学校における保健室の重要性を感じ取っていた。

岡田教諭は、定時制課程の教育相談担当として放課後に「ピアサポート」を実践するなど生徒の悩みに向き合っており、その体験を語って

くれた。定時制課程を意識していない学生が多かったが、「生徒へのよりそい」「見守ること」「視点を変える大切さ」などを学び、「教師の本来のやることや素晴らしさ」を感じた学生も多かった。

##### ②授業の経過

「教職概論」のまとめとして「挨拶をつくる」を実施した。「思い出の教師」の時にテーマとしてあげた「信頼」を得る第一歩が最初の出会であるところを、挨拶の在り方を考えるという内容である。その場で考え挨拶することは難しいため、前時に次の条件を示しておいた。

##### ○医学部生：着任式での挨拶

全校生に対して体育館で1分間

##### ○医学部以外の学生：入学式後の学級での挨拶

新入生と保護者に対して教室で3分間

まず、次の内容を押さえ、挨拶の要点を知らせた後で、事前に各自で考えてきた「出会いの挨拶」を練り直させた。

最初の出会いで、1年間の学級経営（授業）の行方が決まる！

- ・子どもたちの教師への第一印象。
- ・子どもたちが感じ、語られた言葉が、そのまま保護者にとっても「第一印象」となる。
- ・「出会い」の時に子どもたちの心をつかめば、その後の関係が築きやすい。

発表は、5人1グループのロールプレイングである。1人が教員として挨拶を行い、あとの3人が児童生徒、1人が保護者として聞くこととし、次の観点について5段階で採点させた。

評価の観点		
児童生徒の立場で	話の内容	1年生として分かりやすい内容だったか
	態度	堂々としていろいろと相談できると感じたか
	明るさ さわやかさ	はきはきとした明るい声で話されていたか
	声・表現の明瞭さ	適正に聞こえるほどの大きさか
	視線	自分の方を見て話してくれたか(視線があったか)
保護者の立場で	話の内容	保護者として任せられると感じたか
	態度	堂々として保護者として頼もしく感じたか
	言葉遣い	丁寧語や謙譲語などが使い分けられているか
	声・表現の明瞭さ	適正に聞こえるほどの大きさか
	視線	児童生徒に目を配っていることを感じたか

順次、役割を交替しながら行かせたところ、「わずか4人の前でも緊張した」「3分間はとても長かった」と感じた学生が多かった。そのなかで、「(生徒や保護者)が笑顔になってくれると嬉しかったし話しやすかった。話す側も笑顔

であることは大切だが、聞く側も笑顔を絶やさないことが大切だ」と感じた学生もいた。

次は、ある医学部生の観点シートに書かれた「気がついた点」である。コミュニケーションが双方向であることを改めて実感している。

- ・自分の方を見て話してくれるだけでだいぶ印象がちがうと思った。
- ・自分でははっきり話しているつもりでも周りがざわついたりしていると伝わらなかつたりするので、ちゃんと相手の反応を見ながら話すことが大切だと思った。

最後に、「信頼される」ことは「信頼を勝ちとること」「まかせて安心だという期待を抱かせ、それに応えること」として、観点ごとに次のようにまとめて授業を終えた。

- 児童生徒：必ず自分を守ってくれる  
自分の育ちを支えてくれる
- 保護者：必ず子どもを守ってくれる  
子どもの育ちを支えてくれる
- 地域：さまざまな行事に出るなど子どもを見守ってしてくれる
- 同僚：いろいろと相談にのってくれる  
困ったとき率先して動いてくれる

#### 4 授業評価を通して

表4は、学生の授業評価（5段階尺度評価）である。「授業では教員や学生の間で活発な議

表4 学生の授業評価

質問項目	全体(演習)	「教職概論」
この授業に熱心に取り組みましたか	4.22	4.22
教員の授業に対する熱意が感じられる	4.29	4.51
教員の話し方は明瞭で聞き取りやすい	4.19	4.53
学生の理解度を把握して授業を進めている	4.03	3.99
シラバスに、授業の到達目標がわかりやすく書かれている	4.00	3.99
授業の到達目標に向けて、授業全体が組み立てられている	4.12	4.17
授業時間外の学習(予習・復習等)を促す工夫がなされている	3.89	3.32
授業では教員や学生の間で活発な議論や協力が行われている	4.06	4.47
あなたは、この授業の到達目標を達成できましたか	3.96	3.99
あなたは、総合的に判断して、この授業に満足していますか	4.19	4.30

他課程・他学部生の「教職概論」に対する評価である。

論や協力が行われている」は4.47で、演習科目全体の平均値との比較でも0.41ポイント高い。授業の満足度も4.30と、学生にとっては充実したものであったと推察できる<sup>9)</sup>。

また、授業独自に次の4点について自己評価させた(4段階尺度評価, 77名)。

- ・自分は、グループの話し合いや全体での発表において、意欲的に参加できたと思う
- ・今回の授業は自分にとって、新たな気づきや驚き、大変印象的なことがあったと思う
- ・今回の授業を通して、人とのかわりをもったり、その重要性を感じたりしたと思う
- ・グループとして、協力したり助け合ったりして活動できたと思う

図2によれば、マイナス評価は2～4%で、受講者のほとんどが肯定的にとらえていることがわかる。なかでも、関わることの重要性を「よく感じた」とする学生は74%おり、人と関わることを基本とする教職に対する意識は非常に高まった結果と考える。話し合いへの意欲的参加やグループでの協力については「よくできた」と感じている学生が29%、38%であり、グループディスカッションをメインとした点ではやや物足りないと感じる。

しかしながら、「挨拶をつくる」では次のような感想もあった。

- ・教職の授業を受けるようになって自己紹介をする機会が増え、苦手意識が少なくなってきたなーと感じ始めた矢先のこの授業だったので、とても楽しかったです。3分って結構長かったけれど落ち着いてできました。途中から『自分のことを知ってほしい!』と思いどんどん喋りました。

前向きにとらえている学生の存在、特に「楽しみ」に変化していることに授業の意義を感じるところである。

新たな気づきや驚き、印象的な内容については、66%の学生が「よくあった」と回答している。グループディスカッションでの自分と異なる意見と邂逅し、ゲストティーチャーや担当教員の講義からは生徒の頃には見えなかった教員

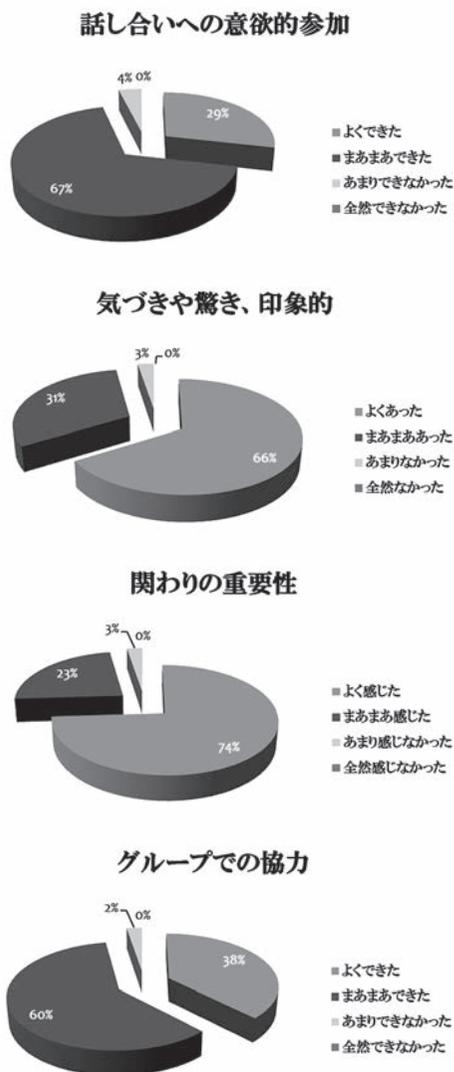


図2 授業活動の自己評価

の活動などを見聞きしたことが相当するのであろう。

表5は、授業全体を通じた学生の感想である。教職につくことをさらに意識する学生、また教職についてさらに理解を深めていきたいとする学生、教職に就くために克服しなければならない課題を明らかにした学生とともに、授業を受けて改めて教職を目指すことに戸惑いを感じた学生も出ていることがわかる。

表5 授業全体を通しての感想

<p>○私は、人と話をするのが凄く苦手で、授業の最初の頃は、この授業、嫌だなと感じていたが、人の意見をしっかりと聞き始めると、徐々に、自分自身が賢くなっていくような気がして、楽しくなり始めた。生徒への接し方や、保護者との対応も、本やインターネットで得られる知識ではなく、友だちとの話し合いを通じて考えることができた。今までは「教師」という存在について、漠然とした感じでしか考えていなかったが、学校という組織を統括している重要な役目を担っていると切に思うようになった。私は小学校教員になりたいと考えているので、もっともっと、教職についての知識を身につけたい。(教育)</p> <p>○「信頼される教師」になるにはどうすればよいのかを考えさせられた。最初のころは自分の理想の教師像“こんな教師になりたい”という大まかなイメージしかなかったが、回が増すにつれて、“こんな教師にならなくてはならない”という要素が少しずつ見えてきた。教師が発する言葉は生徒にとって良い意味でも悪い意味でも影響を与えうる。教師は責任ある仕事であるということ。教師は教えることが主たる仕事ではあるが、それ以外に多くのことをしているということ。なによりも自分が教師になるまでもっと勉強しなければならないということ…。多くのことをこの授業で学べました。自分が学生だからできることを今のうちにやっておきたいと思う。グループワークは苦手かなと思っていましたが、他学部の学生とも語り合うことができて良かったと思った。(経済)</p> <p>○なんとなくぼんやりでしかなかった教職でしたが、先生の話聞いていくうちに教師の表も裏も少しずつではありますが知ることができました。わたしが一番印象に残っているグループワークは自己紹介です。何も考えずに自己紹介できると思っていたのですが、前に立った瞬間、頭の中が真っ白になってしまいました。たった3分、されば3分。ましてや授業ともなれば50分間もしゃべり続けなくてははいけません。しゃべり上手になりましたと本気で思いました。「教職概論」は、自分の意見を発表する機会がたくさんあります。発表することが苦手で、この授業は苦手でしたが、教師になる上でみんなの前で発表するで、自分の意見を述べることは必須なので、得意にまでなる必要はまだないと思うので、せめて苦手意識を克服して、好きになれたらベストだなと思いました。(教育)</p> <p>○「教職概論」の授業は、グループをつくっての意見交換や発表が多かったのが印象的でした。他の授業ではどうしても机の上での勉強に取まりがちですが、この授業ではたくさんの人と関わりが持て、楽しかったです。学部を越えた交流ができることで、さまざまな意見や考え方があることを知り、刺激を受けました。自分の考えや視野が狭いということを感じました。内容として特に印象的なのは、養護教諭の先生のお話を聞く講義です。私は養護教諭に興味がありこの授業をとっているのですが、このような機会をつくっていただけたことは、本当に嬉しかっ</p>	<p>たです。実際に働かされている先生のお話を聞き、思い描いていた先生とのギャップも少し感じましたが、ますます興味が深くなりました。半年間、ありがとうございました。(医)</p> <p>○今回、「教職概論」の授業を受けて、今までより、よりいっそう教師になりたいという思いが強くなりました。グループワークや、外部の先生から話を聞くことで、教師はどういう存在なのか、良い教師になるためにはどうしたらいいのかなど、教師という仕事の根本的なものを学べたと思います。授業の回数を重ねていくことで、自分はどういう先生になりたいのか、将来、本当に教師という道を選ぶのかといったことを考えることができました。講義を終えて、やっぱり私は保健室の先生になりたいと思ったので、今後も頑張っていきたいと思います。そして、今回の講義で、私は岡田先生のような先生になりたいという目標をつくるのが出来たので、目標に向けて日々、努力していきたいと思います。(医)</p> <p>○授業を通して、自分が教職づくにあたって大切なことが多く学べた。学校でおこる様々なことを聞いて、今まで想像していたよりも教師という仕事だということも大変で、そしてやりがいのある仕事だということも分かった。私は4、5月の頃は、教師の免許は欲しいけど教職にはつきたくないと思っていた。でも、授業を聞いていると、教職の楽しさがだんだん見えてきて、今では教師になることも視野に入れている。グループワークも最初は苦手だったけど、だんだん慣れるようになった。授業全体を通して、楽しいという印象を持ちました。(農)</p> <p>○この授業を受けるまでは、ただぼんやりとしか「先生」のイメージがなかった。なんとなくの気持ちで免許が取れたら、と思っていたが、免許を取るにはしっかりと覚悟が必要であると思った。今まで小・中・高校と通ってきて、先生と関わってきてはいたが、知らないことはたくさんあった。やはり、生徒の見えないところで先生たちは数々の努力をしてくれていたのだと思う。休み時間がないとか、家族の団らんがなかなかできないとか、そういったことを聞くと、自分を犠牲にしてまで先生という仕事に一生懸命関わっていることが伝わってきた。それだけ、学校や生徒のことが好きでないとできない仕事だ。…(教育)</p> <p>○この授業で一番印象に残ったのは、教師がいかに大変かということだ。あまりにも大変で、その他の雑用が多くて、教師本来の仕事、生徒と関わり、授業をするということが満足にできない、できていないのではないかと思った。そういう状況下で、それでもなお教師を続けておられる先生方は、なぜ続けていられるのか、それが気になった。自分はまだ教師になろうと決めてはいないが、今回授業で知ったような現状・現場を考えると教師を目指すことに積極的になっていくと感じた。そう感じるのなら、それが自分の答えなのだろうか。もう少し考えるが、考える際の参考に、この授業はなると思う。…(教育)</p>
---	--

## 5 おわりに

「教職概論」の他課程・他学部生の受講は、当然ながら本人の自由意志である。教員免許取得は進路に向けての一つの選択肢として意識したものはあるが、先述の感想にもみられるように、教員養成課程の学生に比べれば、その位置づけは相当な振幅がある。すべての学生が教員を目指すように意欲を高める授業内容を構成するような意図は考えるべくもないが、進路決定する上での一助となるものであるようには心がけた。そのため、「楽しさ」と「厳しさ」をバランスよく感じ取らせるように構成し、「楽しさ」と「厳しさ」は自身の構え方一つで如何様にも変化することを認識させようとした。

学生からは、「教職の楽しさがだんだん見えてきて、今では教師になることも視野に入れている」「思い描いていた先生とのギャップも少し感じましたが、ますます興味が深くなりました」「自分はどういう先生になりたいのか、将来、本当に教師という道を選ぶのかといったことを考えることができました」という前向きな感想があった。また、「今回授業で知ったような現状・現場を考えると教師を目指すことに積極的になりにくいと感じた」という否定的な感想もあった。この相反する見解が混在することが、他課程・他学部生の「教職概論」の真骨頂であるとも感じている。

また、「自分が学生だからできることを今のうちにやっておきたい」と現実を見つめ直す感想があった。「(信頼関係を築く)為の手法を学ぶ機会がこの『教職概論』であった。教師になる為だけでなく人間形成に大いに役立った」という感想も見られ、この授業を教職という枠を越えて意識している学生がいたことも明らかになった。

他課程・他学部生の「教職概論」は教職に対するガイダンス機能が教員養成課程よりも強く求められている。また、学校現場から直接学ぶことの難しい現状、学校種・免許種の多様さから授業に求められているニーズにどう応えるかを考慮し検討を行ってきた。

他課程・他学部生のうち3年次以降に受講した学生は、時を置かず教育実習生として教壇に立つ。そうでなくとも、学校を直接見学することなく教育実習に向かう場合が多い現状を鑑みると、「教職概論」は教職の基本を踏まえた上で、より実践的な内容が求められている。そのため、学生の体験を教職について考える基盤とし、多様な見方・考え方があることをグループワークで認識させた。プレゼンテーション資料には写真を盛り込み、交流人事教員を中心に体験談を語っていった。また、場面指導の経験をさせることで、より実体化できるよう心がけてきた。その成果として、教職を目指すかどうかの再確認につながっていること、教員が求められている資質には規律性や情熱、コミュニケーション能力などがあることを認識していることは、学生の感想に示されているとおりである。

最後になるが、他課程・他学部生は教科内容の専門性はあるものの、教科教育法に関する授業は取得する免許に関するものに限られる。小学校教諭免許を重複して取得する教員養成課程の学生とは、指導技術に関する「学び」に大きな差が生まれているのが現状である。教育実習時につきつけられるこの現実が教職を目指すうえで大きな課題となっていることも否めない事実である。

さらに「教職実践演習」の実施にともない、4年次後期に新たな学修を求められる。分散キャンパスのため、卒業研究時に授業に加えてキャンパスの往復にも相当な時間的負担を強いられることとなり、教員免許取得を断念する他課程・他学部の学生が相当数出現することが予想される。学生の多様な進路選択の途を狭めないためにも、総合大学としての教員免許取得支援のための体制整備が急がれているのではないだろうか。

### 【註】

- 1) 転学部、編入学等により、学校教育教員養成課程に編入した学生（2年次以降）は他課程・他学部生とともに受講することとなっている。
- 2) <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~gakumu2/syllabus/2010/JPN/001381.htm>
- 3) 「平成14年度香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携に関する実績報告書」（2003年）。人事交流により派遣された小中学校の現職教員は3名で、任期は原則3年とされる。
- 4) 「香川大学における百日咳集団感染事例」IASR Vol.29 p.68 - 69: (2008年) (<http://idsc.nih.gov.jp/iasr/29/337/dj3372.html>)
- 5) <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~gakumu2/syllabus/2010/JPN/001382.htm>
- 6) 文部科学省パンフレット「魅力ある教員を求めて」([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/miryoku/03072301/001.pdf#search='魅力ある教員を求めて'](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/miryoku/03072301/001.pdf#search='魅力ある教員を求めて'))
- 7) 岡田教諭は、NHK『プロフェッショナル 仕事の流儀』「定時制高校、明日への一歩」（2010年2月9日放送）に、ピュアサポートによる生徒への心のケアを行っている定時制高校教諭として取り上げられた。
- 8) 本学では、「教職概論」は講義科目ではなく演習科目に位置づけられている。

### 【参考文献】

- 國分康孝・國分久子他（2004）『構成的グループエンカウンター事典』図書文化社
- 大阪府人権協会（2004）『人権学習シリーズNo.2 働く』大阪府企画調整部人権室
- 香川県教育委員会（2010）『平成21年度参加体験型学習を活用した人権学習実践講座記録』
- 教育職員養成審議会（1997）「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について（第一次答申）」（平成9年7月28日）
- 中央教育審議会（2006）「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」（平成18年7月11日）
- 香南町立香川中学校（1984）「昭和58年度実践委員会記録 生徒とともに歩んだ教育」
- 三木町立三木中学校（2007）「平成19年度教育計画」